

平成28年度第6回移動市長室会議録

(平成28年11月23日)

1 日 時：平成28年11月23日（火曜日）10時20分～11時50分

2 場 所：筑紫野市役所第11会議室

3 出席者：

『筑紫野市消防団』

平山団長、山崎博副団長、山崎幹彦副団長、筑紫分団分団長、二日市分団分団長、山口分団分団長、山家分団分団長、御笠分団分団長、女性班班長、女性班会計（10人）

『筑紫野市』

藤田市長、北橋総務部長、宗貞企画政策部長、八尋安全安心課長、萩尾安全安心課係長、森田秘書広報課係長、末吉秘書広報課主査、齊田安全安心課主任

4 内 容：懇談

○（事務局） ただいまから、平成28年度第6回、通算62回目の移動市長室を始めさせていただきます。

本日の懇談は、お手元の次第のとおり進めさせていただきます。なお、本日の懇談内容は、会議録を作成し公表させていただきます。撮影しました写真や動画は、市のホームページ、広報紙に掲載させていただきますのでご了承ください。

それでは、初めに、藤田市長が皆様に御挨拶を申し上げます。

○（藤田市長） 皆さん、おはようございます。今日は、11月23日、勤労感謝の日でございますけれども、平山団長を初め、各分団長の皆さん方、また、消防団女性団員の鳥飼班長をはじめ、女性団員の皆さんに、このようにお集まりをいただき、移動市長室を行うことができますことをまず皆さん方に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

今回が、本年度6回目、通算しますと62回目になる移動市長室の回数を重ねておりますが、消防団の皆さん方とこのような会議をつくったことは初めてであります。消防団は、平山団長さんを初め、日ごろから市民の安全・安心を守るために、御尽力をいただいているわけですが、その御尽力、その御努力に対して、厚く御礼を申し上げるところでございます。

今年は、御案内のとおりですけれども、4月14日の前震と16日の本震と熊本地震が発生して以来、6月から10月にかけて大雨や台風が来まして、我が市でも合計14回の警戒本部あるいは対策本部を立ち上げたわけですが、その中であって、平山団長を初め、山崎幹彦副団長には、本部会議に出席をいただき、激励の言葉を賜りました。まことに、100人を超す職員が集まって体制をつくっている中に、大きな励みとなったところでございました。この場を借りて、厚く御礼を申し上げます。団長、副団長、ありがとうございます。また、各分団の分団長を初め団員の皆さんには、危険も予想されるなかで、昼夜を問わず、巡視活動、あるいは広報活動に従事していただきましたこと、これまた感謝に耐えないところでございます。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

今回の地震によりまして、地域の防災体制の強化の必要性を改めて感じたところでございます。地域の方々と密接な係わりがあり、そして、地域の隅々まで精通した、また常日頃からの郷土愛護の崇高な精神、常日頃からの訓練や防火啓発に取り組んでいただいていること、今年も年末を迎えようとしていますが、今年の年末の防火週間の啓発には、平山団長はもとより、女性消防団の鳥飼班長、女性団員さんたちも参加して、必死に防火週間

の啓発を行っていただいたことが非常に印象強く残っておるところでございます。

このように、消防団は地域防災の中核を担っていただく存在であると考えております。

本日はどうか皆さん方の活動内容、その活動に対する思いをしっかりと聞きながら懇談をさせていただき、これからの市政に活かしてまいりたいとこのように考えておりますので、最後までよろしくようお願い申し上げます。私の挨拶と代えさせていただきます。皆さん、どうぞよろしくお願ひいたします。

○（事務局） 続きまして、平山団長のほうから御挨拶をお願いします。

○（平山団長） 皆さん、おはようございます。筑紫野市団長をいたしております平山弥榮です。本日は、移動市長室という貴重な機会に私ども筑紫野市消防団を選んでいただき、ありがとうございます。

我々の活動につきましては、市長にはあらゆる行事に参加していただいている観点から既に御存じであることは多いかと思いますが、本日の活動報告については、団全体の活動だけではなく、各分団の活動、女性団員の活動、団員の苦労話なども含め、できるだけ細かい部分も御報告申し上げたいと考えております。

本日は、限られた時間ですが、私ども、抱えている課題をお伝えしながら、また、市からの御意見やアドバイスをいただきながら、有意義な会議になればと考えております。最後までどうぞよろしくお願ひいたします。

○（事務局） ありがとうございます。ここで、本日の参加者の自己紹介を行いたいと思います。まずは市側から行います。本日司会を務めさせていただきます企画政策部の宗貞です。どうぞよろしくお願ひします。消防団のほうにも、筑紫分団のほうに15年間お世話になりました。やっぱり諸先輩方を目の前にすると、身の引き締まる思いでございます。よろしくお願ひします。

○（北橋総務部長） 総務部長の北橋です。本当に消防団の皆様には日ごろから大変にお世話になっているところです。本日は移動市長室ということで、いろんなお話を聞かせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

○（安全安心課） 安全安心課課長の八尋です。本日、休みの中、有意義な移動市長室ということでございますが、この時間を皆様方と共有できるようないい機会にさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

○（安全安心課） 安全安心課防災・防犯担当係長の萩尾です。

○（事務局） 移動市長室の担当をしております秘書広報課広報広聴担当係長の森田です。

- （事務局） 秘書広報課広報広聴担当の末吉です。
 - （安全安心課） 安全安心課消防主任の齊田です。
 - （事務局） 以上が行政からの出席者でした。続きまして消防団のほうから自己紹介をお願いします。
 - （山崎博副団長） おはようございます。副団長をしております山崎博です。よろしくをお願いします。
 - （山崎幹彦副団長） 同じく副団長をしております山崎幹彦です。
 - （女性班班長） 筑紫野市消防団本部女性班の班長、鳥飼です。
 - （女性班会計） 同じく、女性班の会計をしております大和です。
 - （筑紫分団分団長） 筑紫分団の分団長をしております藤本です。
 - （二日市分団分団長） 二日市分団の分団長をしております劉本です。
 - （山口分団分団長） 山口分団の分団長をしております長野です。
 - （山家分団分団長） 山家分団の分団長をしております真鍋です。
 - （御笠分団分団長） 御笠分団の分団長をしております松田です。
 - （事務局） ありがとうございます。それでは、筑紫野市の予算概要と消防団に関する主な施策について市長のほうからパワーポイントを使って説明をさせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。
 - （藤田市長） 自己紹介が終わったところですが、今朝、御笠の親善ソフトボール大会がありました。8時ぐらいから出て行って、挨拶をしました。その中に松田晃さんがいました。深く敬礼をして、親しく御挨拶をして帰ってきたのが、今日のスタートです。ただ、高木さんっていう実行委員長さんがいらっしゃって、ソフトボール大会ですから、阿志岐小学校区と吉木小学校区がソフトボールをしながら親善を図るといような大会ですけど、その方が、今日は皆さん、消防団の皆さんとよく日ごろお世話になっているので交流を深めてくださいという御挨拶があったのですね。そういうふうな挨拶があったというのは、非常にうれしく思いました。紹介をしておきます。これは、本題から外れておりますね。本題に戻ります。
- 司会者が言いましたとおり、28年度の予算、もう終盤に入っておりますけれども、その予算のあらかたを申し上げさせていただきたいと思いますが、この一番予算の中で大きいのが、民生費です。これは、子どもさんや高齢者、それから障害者の方の福祉に使われるもので、予算の中の41.6%を占めまして、その額が133億1400万円です。

次が、総務費です。これ行政の運営費や戸籍、税金の徴収などに使われる予算で、これが47億9900万円、全体の15.1%を占めています。

次が土木費です。これは道路や公園などの補修、建設に使われています。予算額は約34億1000万円、全体の10.6%を占めております。

次が衛生費です。健康診断や予防接種、ごみ処理などに使われます。予算額が29億1900万円、全体の9.1%を占めています。

次が公債費、これが市の借金を返済するものですが、予算額は約28億6100万円。これ全体のこれが8.9%を占めています。

次が教育費で、教育や文化・スポーツなどに使われていますが、予算額が約24億700万円、全体の7.5%を占めています。

最後にその他ですが、これが議会や農業・商工業、消防などに使われる予算で、約22億9500万円で、全体の7.2%ということになっています。

28年度一般会計の予算の総額はといいますと、320億425万1000円。これによって10万3000人余の市民の皆さん方の生活を守っていているということになっています。

それから、筑紫野市が基本的に進めていきたいという方向性に基づいて、今年の4月、第5次筑紫野市総合計画を策定しまして、行財政改革、産業・雇用をつくる、生活をまもる、共助社会づくり、未来をつくる、この5つの政策を立てております。

この5つの政策の下には、28の施策、そして122の基本事業、そして700の実施事業の中にこの消防行政の詳細がある。そういうふうになっています。そういうふうなことで、このひかり輝く筑紫野市づくりをつくっていこうと、住みたい、住み続けたい筑紫野市をつくっていこうと取り組んでいくところでございます。

行財政改革ですが、財政計画を立てまして、市の借金であります地方債の残高を減らし、貯金である基金を増やすことに努めてまいりました。現在、どちらも計画の目標値を大幅に上回り、48億2400万円の借金を減らしまして、地方債残高の減少ですね。そして11億5400万円余の基金の積み増しを図ることができたところでございます。

さらに、今後4年間で特に重要となります取り組みでございませけれども、その1つに新庁舎を建設いたします。本市の庁舎は、タコ足と言われるように施設や機能が分散している上に、81年前に建てられた本館を初め、多くの建物が耐用年数をもう既に過ぎています。また、一部の建物が耐震基準を満たしておらず、このままでは災害時の拠点として

の機能を果たすことが困難と言わざるを得ません。

そこで、新庁舎建設の検討を、平成25年度に再開したわけですが、本来は、平成7年、田中市長のときに庁舎を建てたいということで基金を積み始めていたのですね。それを途中でちょっと中断しました。それで、23年、私が市長になってすぐ市民のアンケートをとらせていただいた。73.5%が建てかえたほうがよいというアンケートの結果もって25年度に再開をし、市議会での審議や、パブリックコメント、それから市民説明会の実施を経て、本年5月に筑紫野市庁舎建設基本計画をまとめ上げまして、9月議会において設計施工契約締結の議決をいただきまして、今、現在、基本設計に入っております。そして、その次が、実施設計に入ります。そして、平成30年11月に完成という運びになっていく予定でございます。

これは、目指すところは、地域コミュニティの連携、それから安全安心の防災拠点、行政サービスの拠点として市民が集える将来を見据えたコンパクトな庁舎の実現へ鋭意取り組んでまいりたいと考えております。

次に、生活をまもるの中から、皆さんに関連する主な事業を幾つか紹介をさせていただきますが、最初に、各組織との連携強化とネットワークの整備であります。

今年初めの大雪、大変でしたが、熊本地震を含め、台風や秋雨前線の停滞による豪雨災害など、各地で甚大な被害が発生した1年であったと思います。ここで、消防力を大いに発揮していただいたおかげで市民生活が守られたということでもあります。

本市においても、そのたびに警戒本部、災害対策本部を立ち上げて、毎回100人近い職員が警戒に当たっております。そして、同時に、消防団の皆さんが消防署、警察署、自衛隊などと連携を図っていただいて、あわせて各コミュニティ、各行政区の自主防災組織などとも連携を常に図って、お互いの情報共有をできるように努力しております。

さらに、災害時における本市と国・県との防災情報の共有化を充実させるため、防災・行政情報通信ネットワーク再整備事業に取り組んでまいっております。

次に、消防団員報酬・補償・報償等関連事業、予算額が3609万2000円です。

次に、消防操法大会参加事業、予算額が616万円です。大会出場に向けた訓練に係る出動費用弁償です。

次に、非常備消防車両維持管理事業、予算額が255万円です。

次に、消防団運営補助事業、予算額が73万円です。活動に要する経費のうち、訓練や研修に要する費用を補助するものであります。

次に、防火水槽整備事業、予算額が760万円です。年間1カ所程度の設置を行っております。今年度は筑紫への設置工事を進めております。

次に、防犯灯補助事業、予算額は2522万円です。各行政区が設置する防犯灯及びその電灯費について補助を行うものです。

次に、防犯カメラ整備事業、予算額213万2000円です。街頭犯罪、性犯罪などの発生を抑止するため、市内の主要駅を中心とした道路等に防犯カメラを設置しております。

いろいろ申し上げましたが、このような事業を通して市民の安全安心を確保する取り組みを進めているところでございます。

平山団長を初め、消防団に関連する皆様方の御理解、御協力をお願いいたしまして、私の説明を終わらせていただきたいと思います。御清聴ありがとうございました。

○（事務局） 以上で、主な政策概要の説明でございました。

続きまして、活動報告にまいります。山崎博副団長からよろしくお願いいたします。

○（山崎博副団長） 副団長の山崎博です。今回、パワーポイントを使いまして、消防団の活動を報告させていただきます。

まず、消防団の現状というところで、今、パワーポイントのほうに出ておりますけれども、消防団員の団員数というところでお話をさせていただきたいと思います。

定数341名ですが、現在、平山団長以下328名です。本部につきましては、団長以下18名、うち女性団員は鳥飼班長以下14名となっております。

分団数につきましては、1町4村、合併当時から引き継いだ5分団で活動しております。各分団の内訳につきましては、表のとおりです。

平均年齢39.40歳、平均在籍年9.08年となっております。

職業の構成を見ますと、農業・自営業者等が49名、筑紫野市職員34名、JA職員22名となっております。昔と異なりまして、団員の職業は勤め人が多く、それも市外勤務者が多くなっているところです。このような団員の構成状況ですので、平日の昼間等の団員招集に苦慮しているところです。市内事業者等の理解と協力が必要となっております。

次に、車両及び動力ポンプの状況です。本部には団指揮車1台、ライオンズクラブから寄贈いただきました広報車1台、小型動力ポンプ1台、表には記載しておりませんが、女性消防操法大会用のポンプが1台ございます。

各分団の配置は表のとおりですけれども、消防ポンプ自動車を配置しているところには、

全て部長職を配置しております、9人の部長で指揮をとっているところです。また、山林火災を想定し、山口、山家、御笠分団には、軽自動車に小型動力ポンプを積載しました車両を配備していただいております。なお、二日市分団以外に配置していただいております小型動力ポンプは、全てリアカー積載となっているところです。

次に災害等の出動件数です。平成25年、火災等6件、風水害等3件、捜索1件。平成26年、火災等1件、風水害等2件、捜索ゼロ。平成27年、火災等5件、風水害等2件、捜索1件です。平成28年におきましては、10月末で火災等が7件、風水害等では市の警戒、対策本部設置に伴う対応を含めまして13件となっております。捜索については、組織的な対応としてはゼロ件となっております。

下のほうに写真を掲載しておりますけども、これは平成22年7月14日の大雨で高尾川が氾濫したときの写真です。左は、団員が胸まで浸かって、警戒にあたったという当時の状況です。

次に、消防団の行事ということで、三人行事というところで整理をさせていただきます。

まず、新春を飾る出初式です。右上の写真は、平成27年筑山中学校の操法の様子です。左の写真につきましては、式典終了後に実施しました宝満川での一斉放水の様子です。右下の写真につきましては、平成28年太宰府西中学校において、小隊訓練を実施した、そのときの様子です。

2つ目の事業ですけれども、消防団夏季訓練、毎年夏の一番暑い8月に実施しています伝統の夏季訓練です。市長におかれましては、暑い中おいでいただきまして、毎回、訓示をいただいております。ありがとうございます。

今年度は天拝中学校で実施しまして、幹部、一般、新入、女性団員に分かれ、それぞれに応じた訓練を実施したところです。それと、今年は、筑紫分団が出場のため、自動車ポンプの操法の展示を行ったところです。

3つ目は、年末特別警戒です。藤田市長には仕事納めの後、本当に寒い中、毎年、全分団を巡視していただいております感謝申し上げます。ありがとうございます。

毎年、28日から30日までの3日間、午後8時から翌朝3時まで警戒をしております。以前は、朝5時まで実施しておったところです。

3番目、会議・視察等です。年度初めに行っております。入団式及び新役員の辞令交付式の様子です。今年度は、4月3日に消防本部で藤田市長に出席いただき辞令交付及び訓

示をいただきました。

次は、団総会の様子です。市役所で総会を行いまして、今年の様子ですけれども、27年度の活動報告、また28年度の事業計画等を協議しまして、今年度の活動方針を決めたところです。その後、懇親会ということで会場をかえまして、市長においでいただきまして、部長以上の役員との意見交換をさせていただいたところです。

次に、筑紫野市水防協議会及び水防危険箇所の会議ですけれども、毎年5月に行政、自衛隊、警察、消防本部、消防団等、関係機関が一堂に会しまして、市内の危険箇所の視察等を行い、毎年、確認を行っておるところです。各分団、分団長が出席しておりますので、自分のエリアの危険箇所を周知し、団員に徹底しております。大雨が降った場合には、この危険箇所を中心に巡視をしておるところです。

次に、福岡県の総合防災訓練の視察の状況です。今年度につきましては、熊本で地震がございましたので、柳川市で開催予定であったものが中止となっております。

この写真は、平成27年5月31日、福岡市において、福岡県総合防災訓練が福岡市雁の巣球場横の警察学校跡地で行われた様子です。この訓練には、正副団長、分団長が視察を行いまして、今後の消防団活動の参考にしておるところです。

次に、装備の充実ということでお話をさせていただきます。車両の更新につきましては、年数を経過しました車両から順次更新をいただいております、感謝申し上げます。

平成24年度の山家分団5号車更新から、小型ポンプを搭載していただきまして、初動の機動力が大幅にアップしております。写真は、平成27年度、山口分団の8号車を更新していただいたところで、そのときの引き渡し式の写真です。

また、格納庫の建設につきましては、やはり建物の老朽化に伴いまして格納庫の更新をいただいております。写真は平成25年度事業で建設いたしました、山口分団古賀立明寺班の格納庫です。市長にも出席いただきまして、このように盛大に行うことができました。

次に、新規装備品の支給ということで、国の基準に基づきまして全団員に保護めがね、防塵マスクの貸与・支給をしていただいております。さらに、各分団には一定のライフジャケットも配備していただきまして、団員の安全度の向上を図ることができております。

次に車両点検・訓練等の活動状況です。車両の点検につきましては、毎月第1日曜日に消防本部、市役所、各分団の車庫等で車両、器具、機材等の点検を行い、消火活動に支障がないよう努めておるところです。

また、毎年10月の点検では、全てのポンプ自動車、小型動力ポンプの点検を各メー

カーの方に来ていただき、専門家による点検を実施しております。写真は、美咲の宝満川河川敷においての点検の様子、また操作訓練等を実施しております。毎回、市長におかれましてはお忙しい中かけつけていただき、訓示をもらっておるところです。

その後、団としましては、人権同和問題研修会を実施しております。

次に、筑紫野市・太宰府市合同消防訓練ということで、毎年9月1日、両市で実施されております合同総合防災訓練に参加しております。今年度は太宰府市が当番で、松川総合運動公園で実施されたときの写真です。

昨年度は、筑紫野市の当番で、雨の中訓練実施されましたけれども、訓練としてはとてもよい経験であったというふうに思っております。

次に、火災予防運動週間に伴います山林防備訓練、夜間訓練です。

全国火災予防運動に合わせ、春と秋の年2回、防火思想の普及、防火意識の高揚に努めることを目的に、街頭広報や山林防備訓練を実施しております。

左下の写真は、防火パレードの出発にあたり、市長の訓示を受けている様子です。また、中央の写真は、今年度の11月9日、西鉄二日市駅での街頭啓発の様子です。

次の写真ですけれども、山林防備訓練の様子です。

右側が、春季は例年山林防備訓練を実施することが多いわけですが、今年の3月は団員には訓練の日時を知らせずに、当日、団員専用の招集メールを一斉に配信し、招集をしたところでした。なお、安全確保のため、各車両5名乗車、赤色灯のみの点灯、サイレンは鳴らさず、法定速度を順守し、現場に向かう、この条件だけは事前に指示を出しておりましたけれども、日時、場所については、当日の招集メールで指示をしたところでした。招集場所は、農業者トレーニングセンター駐車場で、到着後、火点に向け放水の指示を出し、タイムをはかったところでした。団としましては、初めての試みで、非常に緊張感のある訓練でした。その日は、3月ということで少し暖かいかなと思いましたがけれども、非常に寒い日でした。我々、役員のほうは車両が到着するまでの時間が長く感じたところでした。

6番目、研修等でございます。まず、筑紫地区連絡協議会が主催しております、消防団員の講習会、毎年7月の第1日曜日に心肺蘇生法、AEDの操作等の講習、防災知識の習得を目的に実施しておるところです。

上2枚の写真は、今年の7月3日に春日原小学校体育館において自主防災組織に関する講習、安全管理に関する講習の様子です。下の写真は、昨年、平成27年7月5日、二日市小学校の体育館において、救急救命講習の様子です。その他、筑紫野警察署にお願いし、

飲酒運転撲滅に関する講習を実施したところです。

次に、人権同和問題研修会です。先ほどもちょっと触れましたけども、毎年10月の車両等の特別点検後に実施しております。ここ数年の取り組みとしましては、3.11の東日本大震災、このことについて、筑紫野消防署の救助隊が現地に行きましたので、そのときの様子や、中学校の先生がやはり夏休みに現場に行かれましたので、そういった生の声をお聞きすることができました。その他、飲酒運転撲滅、認知症高齢者の徘徊、セクハラ、同和問題を計画的に実施しております。

今年度は10月2日に聴覚障害者と災害をテーマに、市聴覚障害者協会の会長さんにおいでいただきまして、講話をしていただいたところです。聴覚障害者が、災害現場で困っていることなどのお話を聞き、また簡単な手話を教えていただいたところです。火災現場等には、高齢者、子ども、障害者など、さまざまな配慮が必要な方がいることを再認識することができました。

次に、操法大会です。まず、第2回福岡県女性消防操法大会、これは平成25年から2年に1回開催されております大会です。本市としましては、初回から参加しております。

写真は、平成27年9月6日、福岡県消防学校において開催された第2回の操法大会に出場したときの写真です。右のほうは、夜間の訓練中の写真です。残念ながら入賞することはできませんでした。

平成29年度は8月27日に予定されております。嘉麻市に県の消防学校が移転します。初めての新しい消防学校での開催となる予定です。

次が、第23回の筑紫地区消防操法大会の訓練と大会の様子ですけども、平成27年9月20日、JA本店で筑紫地区の消防操法大会が開催されました。筑紫野市を代表しまして、山家分団が小型ポンプ、筑紫分団がポンプ車の部に出場し、筑紫分団は準優勝をしまして、今年の県大会の出場の切符を手にしたところです。

結団式から、訓練期間中、大会当日報告会まで、市長を初め、市の職員の皆様、市議会、区長会、関係者の皆様から、連日激励の言葉や応援に来ていただき、感謝申し上げます。本当に、選手にとりましても励みになったところでございます。

地区大会の出場につきましては、5分団ございますので、2年に1回ということで、10年に1回のサイクルで5分団が筑紫野市の代表として参加してございましたけども、間隔を短くし、分団員のスキルの維持向上というところで、本大会からは2分団ずつ出場することとしたところです。

次に、第24回福岡県消防操法大会、今年度、平成28年9月11日に予定されておりました大会、台風12号によりまして順延され、本当に大会史上初めての順延という出来事でした。筑紫野市消防団、筑紫分団は筑紫地区の代表として大会に臨んだところでございます。大会が延びたことで、本番で一番いいタイムを出すことができたわけでございます。19チーム中、2番目という好タイムでした。

2年続けて、結団式から、訓練期間中、大会当日、報告会まで、本当に今年も市長初め、多くの関係者の皆様方に大変お世話になりました。ありがとうございました。

次に、ラッパ隊の活動でございます。ラッパ隊につきましては、平山団長の発案によりまして、平成23年度に筑紫地区で唯一ラッパ隊を結成したところです。写真は、平成27年1月の出初式において、演奏をしたわけですが、現在では、大変申しわけないのですが、活動としては休止しております。なかなかラッパを吹く隊員がおりませんし、非常にこのラッパ、音程出すのが難しゅうございまして、なかなか発展まではいっておりません。再活動に向け、実践や練習方法を今後検討していきたいと考えておるところです。

9番目、女性班、各分団の活動ということで、それぞれから報告をさせていただきます。まず、女性班の鳥飼班長のほうからお願いいたします。

○（女性班班長） 班長、鳥飼から報告させていただきます。

女性班につきましては、女性の特質を生かした活動をしております。

具体的には、写真にありますように、まず左側ですけれども、今年度御笠地区で認知症支援活動を女性消防団として参加しましたので、そのときの様子です。これは、御笠地区で行われている徘徊した方を捜索する訓練なのですけれども、今年で3回目の活動となっております。

それから、真ん中ですが、応急手当講習、これは各事業所や団体から、消防署のほうに応急手当の活動依頼があったときに女性消防団が補助として参加しております。大体、年に20回程度は参加しておりますので、女性活動の中の主たる活動となっております。

それから、右側のほうですけれども、先日、市長を先頭に火災予防の啓発活動、西鉄二日市駅、JR二日市駅、それからJR原田駅などを皆で女性消防団が中心となりまして、お手伝いさせていただいております。

それから、その他には、独居老人宅の訪問をしております。これは、火災予防週間のときに消防署員の方が訪問されるのですけれども、独居の方で女性お一人の御自宅に消防署員の方お一人で行かれるのはちょっとというときに、私ども女性消防団と一緒に訪問して、

活動をしております。

それから、定例会議、これは2カ月に1回ですけれども、市役所をお借りして定例会議をしております。主な活動としては、以上です。

- （女性班会計） 活動ではないのですが、女性班から皆様にお問い合わせがあるのですが、今、14人団員がおります。それで、毎年ですが、新入団を勧誘するのが大変でありまして、今年、市役所のほう、大野さんが入団していただいたのですが、来年からもどんどん入っていただきたい、市のほうも推していただきたいなって、今、各地区の分団長さんがいらしていますが、地区のほうでもあたっていただけないだろうかと思えます。

どうぞよろしくお願いたします。職員さん、どうぞよろしくお願いたします。

- （女性班班長） 女性班につきましては、以上です。

- （山崎博副団長） 次に、筑紫分団、藤本分団長のほうから活動の報告をお願いします。

- （筑紫分団分団長） 筑紫分団の年間行事で主な行事ですが、まず、右側ですけど、毎年2月筑紫神社の防禦訓練、これは重要文化財ということで大体50から60名の団員数が出動して、火災を防ぐために皆で頑張っているところです。

左側、これも毎年9月に行っている美咲のカヌー大会、水の事故がないように、50名ぐらいの消防団員が警備にあたっているところです。

各行政区からも、避難訓練とかの行事も来ております。これも消防団各班で対応しているところもあります。コミュニティも文化祭とか、そういうものを消防団としても活動しているものです。以上です。

- （山崎博副団長） 次に、二日市分団の劉本分団長から活動報告をお願いします。

- （二日市分団分団長） まず、左側の写真でありますけれども、武蔵寺のほうで重要文化財ということで、年に1回1月の第4日曜日ということで毎年ポンプ車、二日市分団3台と消防署2台という参加で、消防団二日市分団30名ほどの活動ということで、年1回防禦訓練を行わせていただいております。

右側の写真ですが、こちらが二日市は消防後援会というのがございまして、年に1回2月の第1日曜日に大体開催していただいておりますが、優良団員ということで、区長さんのほうから表彰と表彰式のあとは、市長が出席されておりますので、消防団からは班長以上が出席ということで、懇親会の形で毎年開催させていただいております。

この分が区長さんたちも変わられたりされますので、消防団の参加者は幹部ということで、毎年交流させていただいているところで、災害などの場合は区長さんとの会話がス

ムーズに進む形になっております。

写真にはないのですが、二日市消防団のほうも各区の防災訓練、コミュニティ活動として消防団ということで活動していただいて、頑張っているところです。以上、二日市分団からの説明です。

○（山崎博副団長） それでは次、山口分団、長野分団長お願いします。

○（山口分団分団長） 左の写真は、毎年11月に山口小学校でふれあいフェスタというのがあるのですが、警備はもちろんなのですが、子どもたちに放水体験を実際にしてもらっています。

右側の写真は、毎年これも1回ですが、山口分団の管内で水利は川からなのですが、中継訓練をさせてもらっています。その写真は、街道団地の裏のほうの山口川でさせてもらった写真だと思います。以上、写真の説明はこれで終わります。

○（山崎博副団長） 次に、山家分団、真鍋分団長お願いします。

○（山家分団分団長） 左側の写真は、山家地区の運動会の写真で、道具の出し入れ等を手伝っております。また、団員さんには、運動会の役員として、各地区の体育委員として出動、担っていただいております。

それと、右側ですけれども、これは山家地区の防災訓練のときの活動です。小学校のプールから、小学校の給食室が燃えたということで設定して5号車に中継してから放水した写真です。

その他いろいろありますけれども、筑前町の第2分団と連携をとって、私たち年1回合同訓練をやっております。これは分団長が話し合って、いつやるというのは決めていませんけれども、日にちが取れた日にやっているところです。これは、もう10年近く筑前町と連携をとってやっておりますので、今後も長く続けてまいりたいと思っておりますので、どうかよろしくをお願いします。以上です。

○（山崎博副団長） 最後に御笠分団の松田分団長お願いします。

○（御笠分団分団長） 写真の左側ですけど、今年で3回目になります御笠地区の認知症の支援訓練ということで、これも女性班と一緒になんですけど、御笠分団31名参加して、徘徊者のサポーター役として活動しています。

右側の写真ですけど、これは、年3回、御笠分団特別訓練ということで、これが27年の3月に竜岩自然の家の上流を水利として延長400メートルで竜岩の管理棟を火点に設けて、小型ポンプの6台によってホース等は各班で想定外ということで、火点と水利だけ

を想定した訓練をしております。そして、その他にも地域恒例行事で、文化祭、体育祭、学習フェスタなどそれぞれの警備や事業の方にも参加しております。

あとは、今年に関しては御笠地区のほうから、御笠駐在所と御笠分団で御笠のヒーローということで、小学生を対象にして夏休みの子ども学習会の中でやってくれということで参加しております。年間の行事としては以上です。

○（山崎博副団長） 以上で、団からの報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○（事務局） 皆さん、どうもありがとうございました。

数多く写真を掲載していただいております。日ごろの訓練、あるいは行事を通して、やっぱり組織力のためには規律を通して、組織力が上がっているのだな、そういった活動が見て取れたのではないかなというふう感じたところです。ありがとうございました。

それでは、質疑・意見交換についてということで進めさせていただきたいと思います。

事前に2点ほど質問をいただいております。その件から始めたいと思いますが、まず1点目、小型動力ポンプについて、山崎幹彦副団長より御説明をお願いします。

○（山崎幹彦副団長） 現在、筑紫野市には小型ポンプが29台ありまして、それで積載車が3台、26台はリアカーの積載という形で、配備しております。

特に、リアカーの機動力が今は問われる時代になっていまして、運ぶたびにリアカーで引っ張るといような状態じゃあ、なかなか機動力上がらない。それで、できれば軽トラ等があればと思っています。現在、自営業者、農業者が減ってきている状況で、その班に軽トラ、トラック等がない班が少しできています。それで、どうしても点検等が、特に災害等では、ポンプを持って来られないような状況というのが、今、問題になっております。

それで、できれば軽トラか、車両積載のような形で今後機動力アップのために考えていかなければならないと思っています。その点について御質問させていただきたいと思います。

○（北橋総務部長） それでは、私のほうから、回答させていただきます。

今、小型ポンプの機動力アップということでの軽トラへの積載というふうなお話があったところですけど、新たに小型動力ポンプの積載車にお話が合ったように切りかえたり、それから、今の班の数の軽トラを購入していくということにつきましては、当然のことながら購入費用、それから維持費用、また格納庫の問題等もあることとございます。そのような状況も踏まえながら、平成24年度の自動車、ポンプ更新時から、いわゆる小型動力

ポンプ車を積載して、初動の機動力アップに今日まで努めてきているところでして、今、4台ほど自動車に小型ポンプを積んでいるというような状況であるかと思えます。

一つは、このような形でそのような対応をできたらというふうに思っておりますし、またあわせまして既存の小型動力ポンプの機動力確保というのは、大切なところでありますので、今後とも機材の有効活用に関して協議をさせていただきたいというふうに思っております。どうぞよろしく申し上げます。

○（事務局） 具体的にいつということにはなりませんけど、今後協議という形でどうかという回答でした。この件についてはよろしゅうございましょうか。

○（山崎幹彦副団長） 予算的なもの、いろいろあると思えます。また団としても、組織の編成を立て直して、小型ポンプがリアカーだからあれだけいるのですけど、要するに車になってくるとまた班統合とか考えていかなければいけないのじゃないかなと私は思っております。

○（事務局） わかりました。次の質問が、コミュニティに関することについてで、続いていきます。コミュニティ活動と消防団組織についてという質問をいただいています。これについては、劉本分団長のほうから申し上げます。

○（二日市分団分団長） コミュニティ活動と消防団組織についてということで、今、各5分団ございますが、コミュニティが実質的に7つという形で、各安全安心部会というふうに在籍し、そういう形で活動に参加しているような状況なのですけど、二日市が、二日市東コミュニティということができまして、うちの3号車と、山口の8号車が一応合同になるような形で、そこに責任あるべき分団長という、そういった責任の所在が、不明確なような状態になっているわけです。

また別に、筑紫分団も2つのコミュニティがありまして、筑紫分団1つで2カ所のコミュニティ活動に参加というような現状になっておりますので、今後コミュニティ活動が中心に動いていくような形になりますので、消防団の組織の再編成という主な形はどのようにお考えかを質問させていただきます。

○（北橋総務部長） この件についても、私のほうから回答させていただきたいというふうに思っております。

まず、コミュニティへの消防団の御協力ですが、先ほども、各分団のほうから活動報告ということであったところですが、それこそコミュニティでの文化祭の活動や、御笠での徘徊模擬訓練、さらには市長のほうからも御紹介ありましたが、本日は御笠地区での親善

ソフトボール大会、二日市地区コミュニティでのウォーキング、早朝から消防団の皆さんは出ていただいていますので、本当にありがたく思っております。このような連携が、安全安心のまちづくりにつながっていくし、コミュニティの活動を充実させていく、まさにまちづくりの一端を担っていただいていることに、本当に感謝申し上げます。

筑紫野市消防団についてですが、昭和30年から、1町4村、合併の名残を受けまして、現在まで5分団で活動をいただいているところです。

先ほど、劉本分団長のほうからお話がありましたように、今、市では7つのコミュニティということで、そのまちづくりを7つのコミュニティということで進めているところですが、5分団ということになりますと、分団の指揮といいますか、そういうことも合わせまして運営上含めて、さまざまな課題が出てきているのだなということを感じております。

組織の再編というのを視野に入れながら、また分団を再編した場合、各分団の定数、さらには再編に伴う役職階級の定数、また消防団活動の機動性等の問題等もございまして。今日のこの移動市長室をきっかけとしながら、消防団の皆様と協議しながら、7分団化、7コミュニティに向けての協議をさせていただければというふうに思っておりますので、今後とも協議をしていく場合には御協力、ぜひともよろしくお願ひしたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

○（事務局） コミュニティについては、7コミュニティと5分団の関係がありますので、まさに今日から組織改正についてのスタートをさせていただきたいという話でした。

あわせて、先ほどの軽自動車の件についても、組織が関わって、また装備のほうも検討していく必要が出てくるのかなということがございまして。

この件に関して、何か御意見等があればお願ひします。

○（山崎幹彦副団長） 意見で、現在も7になっているような状況で、普通、行事等はいいのですが、もし災害等が、大きな災害とかが発生した場合に、現在、筑紫の場合は2つ、ちょうど分かれていいのですが、二日市、山口が分かれた状況、現在どうするかというのを結論を持っておかないと、山口分団が引き継ぐのか、二日市分団が引き継ぐのか、この辺はある程度早急に決めてもらっておかないと、団でも調整しないといけないと思うのですが、二日市東コミュニティの消防団としてをですね。

今、両方の分団にお願ひしないといけないと思うのですが、両方ではまた問題があるし、両方とも引いていたらまた問題があるし、その辺を早急に。ぜひ、それから、区域割はわかっていると思うのですが、消防団は分かれていませんので、両方でしなければ

いけないものだから。早急にしないと命令系統が全然違ってきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○（事務局）　そうですね、わかりました。組織としてどうあるべきかというのは、消防団の組織の中でこうがいいのじゃないかというような提案を受けながら進めていく必要があるのだろうというふうには思いますけども、その辺が地域の課題を組織としてどうしていくのが一番ベストか、その点は協議させていただければと思います。

○（山崎博副団長）　山口、二日市、今、現状どんな動きをしているかをちょっと詳しく話してもらって、こういう課題ありますよというのを話しては。

○（二日市分団分団長）　コミュニティの分では、まずコミュニティのほうから部長さんのほうに会議等があれば出席してくださいというようなことでおりにきていますけど、行事が重なるとかになれば、こっちまでまだ上がってこないような状況です。万が一重なったときは、二日市は行けないので、二日市なしで、同じ山口行けますかというような、やりとりにもなってますし、参加できれば3号車だけが二日市コミュニティのほうで関わってくるんですけど、そこで私と副分団長と参加できれば、それに参加させていただく形にしておりますので、それと分団の中で一斉に号令を流してしておこう、二日市コミュニティと二日市東コミュニティの分がちょっと重なってきますので、そこが各部長ともどういうふうに対応しようかということで、今、話しているような状況です。3号車で足りなければ、1号車、2号車からも応援に行くような形です。

○（山口分団分団長）　山口も特にできたばかりなので、依頼とかはないんですけど、会議のほうはやっぱ8号車の部長と班長2名で会議には出席しているような状況です。

特にまだ依頼とかあっていませんので、依頼があればそのときは二日市と相談してやるっていう意識でやっていきたいと思っています。

○（藤田市長）　7コミュニティも今、立ち上がったばかりです。具体的な具現化した活動というのは今からなのですが、今、この消防団との移動市長室を初めてやって、皆さん方の活動をつぶさに聞かせていただく中で、自助、共助、公助の最たるボランティアの活動をしていただいているのが平山団長を初め消防団の皆様方という、そういうふうな非常に、10万3,000人余の市民の安全安心を守る、さらに自助、共助、公助をつくり上げる、一番大事な組織であると思っています。ですから、今、7つのコミュニティの館長会、それに元の区長さん、総代から区長に移ってきた、そのところもまだはっきりした組織ができていません。そういう非常にまだでき立てのほやほやの中に、この消防団をどう7コ

コミュニティの中で、要するに1町4村、5分団を7分団にするということは、お話にも出てまいりましたように、その分団の隊の隊員の分区から、また消防後援会を皆さん持っているところの地域など、それぞれに違う特色はありますので、これらについては平山団長を含めて、市のコミュニティ協議会の担当部長あたりと協議をしながら、消防団の活動を存続させながらコミュニティと共存共用ができる体制づくりをどうつくっていくかというのをこれから協議していかなきゃいけないだろうと思っていますので、どうぞ分団長の皆様方も、女性班の皆様方もよろしく願いをしていきたいと思えます。これからですね。

○（事務局） この関係については、これから市長も申し上げましたとおり協議をさせていただきたい、まさに今日がスタートという形で検討よろしく願いしたいと思えます。それでは、このテーマ自体よろしいですかね。

では、本日のテーマ、消防団の活動についてということで、市のほうにこういうことを聞いてみたいということがあればお願いしたいと思えます。

○（山崎博副団長） そうしたら、久々、今年は県大会にもまいりまして、2年続けて操法の訓練を実施したところですよ。そういった意味で、筑紫分団、山家分団も操法に向けていろんな取り組みをしたと思えますけど、その辺、苦労話や成果を、お話しをさせていただければと思えます。

○（筑紫分団分団長） 昨年からは、筑紫分団と山家分団で、筑紫地区大会に向けて農業者トレーニングセンターのグラウンドで訓練をしたところですよ。筑紫地区のときは、下がグラウンド、土でよかったのですが、今回今年の県大会になるとそういうわけにはいかないので、アスファルトの状況で訓練しなくてはいけないところだったのですが、そのアスファルトを探すのも、場所的に探すのに本当に苦労しました。あったのはあったのですが、それに向けての準備と照明がない。そういうことで大分時間がかかりまして、選手にも団員にも大分負担をかけたところですよ。今後、来年から筑紫地区大会があります。また県大会に行けばそういったところですよ。すぐにもできるような体制でやってもらいたいというのが、私が一番感じたところですよ。

○（藤田市長） 今の、筑紫分団長からのお話がありましたように、勝負かけて訓練をしているわけですから、訓練の場所すらもないと、条件が整備されていないというようなこと、これはもう行政側としても真摯に受けとめる側で、なんらかその辺の対応は考えていかななくてはならない。これらについても団長を中心に皆さんと協議をさせていただく中で改善に向けて進んでいきたいとこのように思っています。

これ、結構メーター数もいるし、幅もいりますよね。

- （筑紫分団長） 小型ポンプだったらいいですけど、自動車だとメーターも幅も必要なのですよ。そういうところがあれば助かるのですけど。
- （藤田市長） しかしまあ、このたびも何回か見せていただきましたけど、本当に照明の暗いところで走って競技の訓練をしているというのは、けがをするんじゃないかなって思って、心配したぐらいありました。ですから、今の意見は、真摯に受けとめて前向きに検討したいというふうに思っています。
- （山口分団分団長） 山口分団ですけども、29年度のポンプ操法の大会に二日市分団とともに出場する予定になっております。そのときは、二日市分団と協力し合って一生懸命頑張ってきたと思いますが、まだいつごろから、訓練を始めるかはっきりは決まっておりません。そのときはまた皆様方にはいろいろ迷惑をかけるかと思っておりますけども、済みませんが、御協力のほどよろしく申し上げます。以上です。
- （平山団長） 済みません、操法は来年は、来年の4月1日、嘉穂に新しく消防学校ができて、そこで大会がありますが、室内が非常に広いということを知っておりますので、恐らく段取りがあると思っておりますけれども、その辺はちょっとまだはっきりしていませんが、大会は来年はそちらのほうであるというふうに聞いています。
- （山崎博副団長） このごろは、他市も含めてですけど徘徊者の捜索依頼のメールが入っておりますけれども、御笠は大分前から模擬訓練を続けてありますし、今年から山口が始まりました。御笠分団、独自でされていますので、その辺、状況を話をさせていただきたいと思っております。
- （御笠分団分団長） それは、前分団長の鬼木分団長のころから大牟田のほうでやっていると、それはもう市全体の動きで200人、そのくらいの規模で、御笠のほうの分団長と安全安心部会長あたりで視察に行つて、そのままこっちに持って帰ってきてどうだったということで高齢者の見方を勉強しています。1回目、2回目は安全安心部会のほうで徘徊者模擬訓練ということで訓練したのですが、今年は、コミセンのほうの実行委員会を組織に上げて、その実行委員で今度は認知症支援訓練という形に名前をかえまして、今年で3回目になる。

それで、1回目が吉木校区、2回目が阿志岐校区、3回目は吉木校区内の各行政区に徘徊者を配置して、竜岩地区に関しては、徘徊者が家のほうに訪問したときの対応というのをすることで3回目の訓練をしました。まだまだわからないというか、いろんなこ

とがあるのですが、声のかけ方とか、結局よく似たような人が、全然知らない人が通って、そっちに声かけたと、こういうのもいろいろありまして、これがずっと続いてくるんじゃないかなと思います。

今年は、山口と春日市のほうの視察が来られて今年は実行委員含めて二百四、五十になるといいますので、だんだんと大きくなっていくんじゃないかなと思います。以上です。

○（女性班班長） 女性班も一緒に参加させてもらったのですが、今年の第3回の認知症支援訓練は、御笠分団と同じように実行委員のメンバーとして最初から参加させてもらいました。

私どもも、団員がそういうことに参加することによって、現実には1団員の例なのですが、会社の帰りに車で帰っていたのですが、なんか様子がちょっとおかしい人を見つけて、車をとめて、どうされたんですかという声かけをして、結局たまたま徘徊者メールに入っていた方というのがわかって、じゃあ一緒に行きましょうねという感じで市役所までお連れしたということがあったのです。それで、団員が言いますには、やっぱり自分がそういう訓練に参加していたから、きっと気がついたのだろう、普通だったら、自分は車に乗っていますし、相手は歩きでしたのでちょっと気がつかなかっただろうと言っていました。ですから、団員自身もすごく訓練が役立ったというふうに思います。

○（藤田市長） そうですね、松田御笠分団長からも鳥飼班長も言われておりますが、私も3回の訓練、反省会に出させていただいて聞くと、やっぱり声をかけるというのが難しい、この人はと思っただけ声をかけたら全然違う人だったり、その訓練がなかなか難しい。うまく声をかけて、それに乗ってくれれば、見分けもつくのだけど、見分けがつかないということとを盛んに言ってらっしゃいましたけれど、3回目になると他から視察に見えてある人がどんどん増えていって、これはやっぱり大牟田が先進と言っていたけど、この御笠コミュニティが先進じゃないかなというくらい感じさえて受けています。

それで、健康福祉部、福祉関係のセクションが市役所にはありますけど、まもるくんからのメールがしょっちゅう入るのです。12班くらいに分けて出動して、捜査に出るのですが、それよりもやっぱりそういうふうに鳥飼班長が言われたように訓練した人を見つけるほうが早いですね。市役所の職員は見つけきりません。そういうのをやっぱり考えると、事前の訓練をどのようにやっていくか。

最初のころは団長に言って、捜査に消防団に出してもらいましたよね。一晩中探して、あくる日、家の隅っこのほうに屈んであったとかありましたね。朝飯をどうしようかとか、

そんな話をしたことあったのですよ。

だんだん体系は変わってきましたし、そういう訓練によってそういう見つける力、それから保護する力が皆に出てきたというのは、これから多くなってきますから。どうしてもなんかあったら、消防団、消防団って言うけど、これは皆でそれを地域のコミュニティ活動の中でやっぱりやっていかないといけない。そういうふうな今観点に立っているのが市の行政の状況です。どうぞ、よろしく願いしておきます。

○（事務局） よろしいですか。他になければ、最後になりますけども、藤田市長から御礼の御挨拶を申し述べます。

○（藤田市長） 本当に今日の勤労感謝の日に、いろいろとスケジュールがあったことだと思いますが、消防団平山団長を初め、分団長さん、女性班の皆さんと会合を持つというのは、こういう時しかできないのかなと思うのと、大変御判断の中に参加していただいて、このようなすばらしい62回目の移動市長室を開催でき、しかも、内容充実した移動市長室になったことを御出席の皆さん方に心から厚く御礼申し上げるところでございます。

皆さん方の活動の説明を受けながら感じましたのは、平山団長を初め、皆さん方は、昼夜心の休まることがないぐらいの緊張感の中で市民の安全・安心を守っていただいている。その活動の様子がよく理解できたと同時に本当に世話をかけているなと思いました。

要望事項を何点かいただきましたけれども、これにつきましては、できる限り前向きの行政内での協議をしながら、予算等も確かにございますけれども、なるだけ改善できるように努力をしていきたいとこのように思わせていただいているところでございます。

今後とも平山団長を初め、各分団長、女性班の皆さん方には、いろいろとお世話になることが多いと思いますが、想定外の災害を含めて、火災いつ起こるかわからない、こういう現状は、偽りのない現実でございますので、皆さん方のさらなる市民に対して、また、行政に対してのお力添え、また御協力を心からお願い申し上げまして、意を尽くしませんが、今日の62回目の移動市長室に対しましての皆さん方の御協力に対し、心から厚く御礼を申し上げまして、お礼の言葉に代えさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。